

支援を受けて知財体制に対する意識が向上 油圧からAIへの挑戦とそれを支える知財戦略

本 社	〒802-0001 福岡県北九州市小倉北区浅野3丁目8番1号 AIMビル8階 TEL : 093-513-6811 FAX : 093-513-6855		
U R L	http://www.e-ryowa.com/index.html		
業 務 内 容	油圧装置の修理・メンテナンス・改造、油圧配管の工事・改修・変更、 油圧ユニット設計・改造、外観検査システムの開発・製造・販売		
設 立 年	昭和43年5月	資 本 金	2,000万円
		従 業 員 数	24名



代表取締役
田中裕弓氏

リョーワは、油圧ユニットの設計・製作からメンテナンスまでを主な事業として行っている油圧のプロ集団である。近年は、主軸の油圧事業に加え、外観検査システムに関する新規事業に注力しており、それに伴い、海外人材の積極的活用や、海外の大学内に研究開発拠点を構えるなどの先進的な取組を行っている。

知財に関する社内体制の整備を行い、そこから生まれた知財を強みとして新規事業に取り組んでいる。

■きっかけは海外人材の活用

油圧装置の修理やメンテナンスを主な事業として、1968年（昭和43年）の創業以来発展してきた同社。さらなる事業拡大のため、2010年頃からは、油圧装置のメンテナンス業から大きく方針転換し、新規事業としてAI（人工知能）を用いた外観検査システムに関する研究開発を行っており、ものづくり企業へと変革を果たした。

AIを用いた外観検査システムの研究開発を行うにあたり、同社では海外からインターンシップ生の受入れをしたが、インターンシップ生が関与した発明の特許出願する際に、受入れ元の大学側との間で問題が生じていた。

そんな折、同社は、九州経済産業局の紹介により海外知的財産プロデューサーの存在を知り、相談の機会を得た。その後、同プロデューサーによる継続的な支援がスタートした。

取材企業の声

今回の支援を通して、企業の規模に関係なく知財保護が如何に大切かということを認識できました。今後は知財戦略を会社の強みのひとつに育てていきたいと思えます。

（同社代表取締役 田中氏）

インターネット業界では、特許を取得するよりも先にオープンソースにし利益を上げるモデルを遂行していましたが、物作りにおける特許取得の考え方は勉強になりました。

（同社事業部長 津田氏）

■職務発明規定と秘密情報管理規定に課題

同社からインターンシップ生の受入れについて説明を受けた担当プロデューサーは、職務発明規程と秘密情報管理規程の重要性について解説するとともに、海外の大学との交渉について、知財面の課題の整理を行った。具体的には、就業規則における職務発明条項をブレイクダウンした職務発明規程及び秘密情報管理規程の制定／運用を行うことを提案した。また、インターンシップ生の関与した発明について、就業状態等を確認した上で、インターンシップ生であったとしても、通常の職員と同様に扱うのが妥当であると考えられることにも言及し、職務発明規程の重要性を強調した。

同社代表取締役の田中氏は「支援開始前は、海外の大学とインターンシップ受入れについてのMOU（覚書）は締結していたものの、別個の職務発明規程は存在せず、職務発明に対する意識が薄かった。」と述べており、



菊田事業所の社屋

支援を通じて知財（特に、職務発明や秘密情報の管理）に対する意識が変化した、と支援開始当時を振り返っている。

同社はその後、継続的な支援を活用し、担当プロデューサーから助言を受けながら、職務発明規程及び秘密情報管理規程を制定し、運用を開始した。

また、並行して、新規事業である外観検査システムの特許出願／商標出願の検討も行い、その際にも担当プロデューサーから事前に出願方針について助言を受けた。知財体制の整備を行ったことにより発明の帰属が明確になったことと相まって、新規事業を支える特許権／商標権の取得に向けて検討が進んだと、同社は考えている。

自社の技術力を裏付ける特許出願を行い、新規事業の拡大のため特許権／商標権の活用を視野に入れ、その新規事業を中心としたものづくり企業として、さらなる躍進を目指している。

■外観検査システムの社会実装

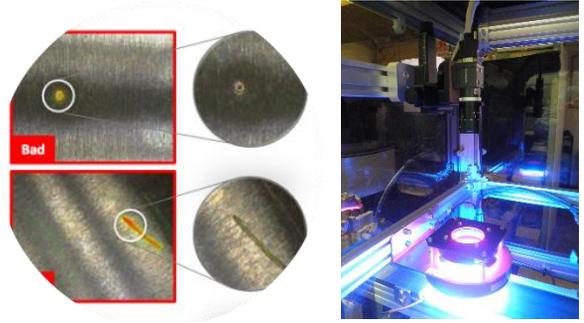
同社は、外観検査システムの社会実装に取り組んでおり、担当プロデューサーから同社技術の強みを生かす知財戦略についての解説を受け、技術力を裏付ける特許出願を検討している。

今後は、外観検査システムについて、国内外での実証実験や他社との協業にも積極的に取り組んでいく予定であり、それらを見据えた特許出願について、担当プロデューサーから助言を受けているところである。

支援を振り返って

本件は新規事業の国内外のスムーズな事業展開を支える知的財産戦略の立案と実行等を支援した事例である。今後は、事業化に際しての知的財産リスクマネジメントにもフォーカスして支援を継続する所存である。

（海外知的財産プロデューサー 松島 重夫）



同社製品のAI外観検査システムによる検出結果（左）及び外観検査システム（右）の例

海外プロデューサーによる支援について田中氏は「支援の前後で一番変化したことは、知的財産に対する意識であり、担当プロデューサーの知財の知識の広さにより、横断的な気づきを得ることができた。」と振り返りながら、「事業の成熟具合に応じて、今後も担当プロデューサーに相談していきたい」と述べ、引き続き海外知的財産プロデューサーの支援に期待を寄せている。

以上のとおり、株式会社リョーワは、油圧からAIという大胆なチャレンジを行う革新的企業であり、海外人材の活用やそれにまつわる知財体制の整備に力を入れる、パワフルな企業である。

北九州の工業地帯から世界へ羽ばたく同社から今後も目が離せない。

今後の事業展開

国内外において外観検査システムの実証実験を行い、サブスクリプション方式による安価な外観検査を提供したい。

また、実証実験により検査精度を向上させ、日本の顧客ニーズを満たす段階まで研究開発が進めば、支援を通じて取得した特許を活用しながら、自社製品を日本で提供し、さらなる事業の拡大に努めていきたい。